

基礎の線熱貫流率の評価方法について

新評価方法

- 基礎形状によらない代表値
- 基礎断熱の形状別の早見表（ベタ基礎2仕様、布基礎2仕様）

早見表の例

表 16a 内側断熱・ベタ基礎の場合（温暖地の参考）

R (m ² K/W)	0 (m ² K/W)	300未満				450以上900未満				900以上3060未満			
		断熱材の厚さ10.0未満	10.0以上2.0未満	2.0以上3.0未満	3.0以上4.0未満	4.0以上5.0未満	5.0以上10.0以下	10.0以上2.0未満	2.0以上3.0未満	3.0以上4.0未満	4.0以上5.0未満	5.0以上10.0以下	10.0以上2.0未満
1.0以上2.0未満	1.05	0.80	0.76	0.75	0.74	0.73	0.73	0.68	0.66	0.65	0.64	0.62	0.55
2.0以上3.0未満	1.04	0.80	0.77	0.76	0.75	0.74	0.73	0.69	0.67	0.66	0.65	0.62	0.55
3.0以上4.0未満	1.01	0.80	0.77	0.76	0.75	0.74	0.73	0.69	0.67	0.66	0.65	0.62	0.55
4.0以上5.0未満	0.99	0.79	0.77	0.76	0.75	0.74	0.73	0.69	0.67	0.66	0.65	0.62	0.55
5.0以上10.0以下	0.96	0.79	0.77	0.76	0.75	0.74	0.73	0.69	0.67	0.66	0.65	0.61	0.55



従前の評価方法（旧評価方法）

- 基礎形状をパラメータとした一般式

$$\psi_g = 1.80 - 1.36(R_1(H_1 + W_1) + R_4(H_1 - H_2))^{0.15} - 0.01(6.14 - R_1)((R_2 + 0.5R_3)W)^{0.5} \quad (1)$$

$$\psi_g = \begin{cases} 0.76 - 0.05(R_1 + R_4) - 0.1(R_2 + 0.5R_3)W & (R_1 + R_4 \geq 3 \text{ のとき}) \\ 1.30 - 0.23(R_1 + R_4) - 0.1(R_2 + 0.5R_3)W & (3 > (R_1 + R_4) \geq 0.1 \text{ のとき}) \\ 1.80 - 0.1(R_2 + 0.5R_3)W & (0.1 > (R_1 + R_4) \text{ のとき}) \end{cases} \quad (2)$$

$$\psi_g = \begin{cases} 1.80 - 1.47(R_1 + R_4)^{0.08} & (R_1 + R_4 \geq 3 \text{ のとき}) \\ 1.80 - 1.36(R_1 + R_4)^{0.15} & (R_1 + R_4 < 3 \text{ のとき}) \end{cases} \quad (3)$$

$$\psi_g = \begin{cases} 0.36 - 0.03(R_1 + R_4) & (R_1 + R_4 \geq 2 \text{ のとき}) \\ 1.80 - 0.75(R_1 + R_4) & (R_1 + R_4 < 2 \text{ のとき}) \end{cases} \quad (4)$$



- 基礎形状によらない代表値（変更なし）
- 基礎断熱の形状別の早見表を**拡充**（ベタ基礎**9**仕様、布基礎**9**仕様）

		ベタ基礎			布基礎		
		基礎壁			基礎壁		
		外断熱	内断熱	両面断熱	外断熱	内断熱	両面断熱
土間	土間断熱なし						
	土間コン上面断熱						
	土間コン下面断熱						

グレー：現行評価方法の早見表で確認できる仕様

青：新評価方法の早見表で追加される仕様（ベタ基礎）

緑：新評価方法の早見表で追加される仕様（布基礎）

原則、使用すること



廃止とするが、経過措置として当面の間、使用可能

※令和8年10月21日付け発出の事務連絡「建築物エネルギー消費性能適合性判定等における基礎の線熱貫流率評価の取扱いについて」をご確認ください。
<https://www.mlit.go.jp/common/002027707.pdf>

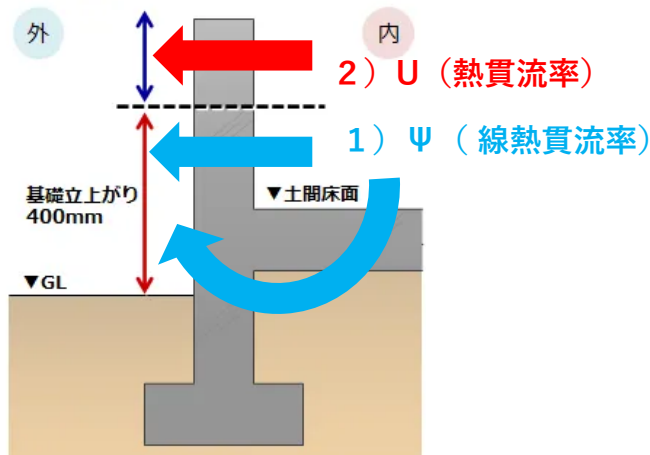
新評価方法の内容について

評価方法について

【旧評価法】

基礎立上り(基礎壁)と基礎を**一体で評価**する方法

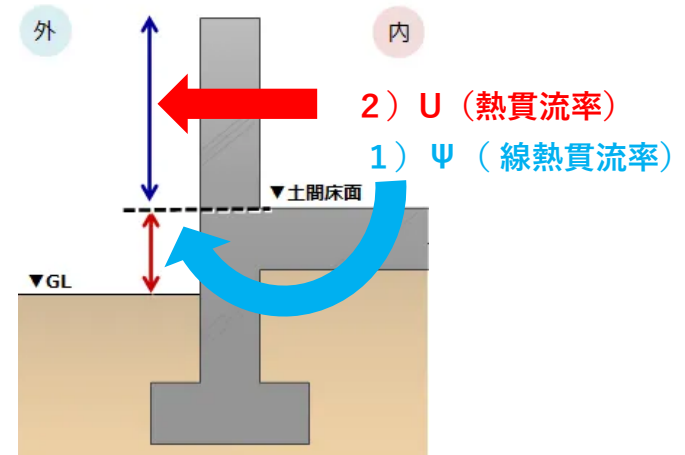
- ・地盤面から基礎立上がり400mmまでの**熱損失を一体**評価
- ・地盤面から400mm超を基礎壁として評価。



【新評価法】

基礎立上り(基礎壁)と基礎を**別々に評価**する方法

- 1) 土間床上端から下の部分を**線熱貫流率**で評価
- 2) 土間床上端から上の部分を**熱貫流率**で評価



**令和8年11月1日で廃止するが、
経過措置として当面の間、使用可能**

新評価方法の 1) ψ (土間床等の外周部の線熱貫流率) 値は、

- ①「基礎形状によらない値を用いる方法」(ψ : 一般的な基礎断熱の場合0.99)
- ②「定常二次元伝熱計算により算出した代表的な仕様の計算例の値を用いる方法」
- ③ 任意評定の ψ

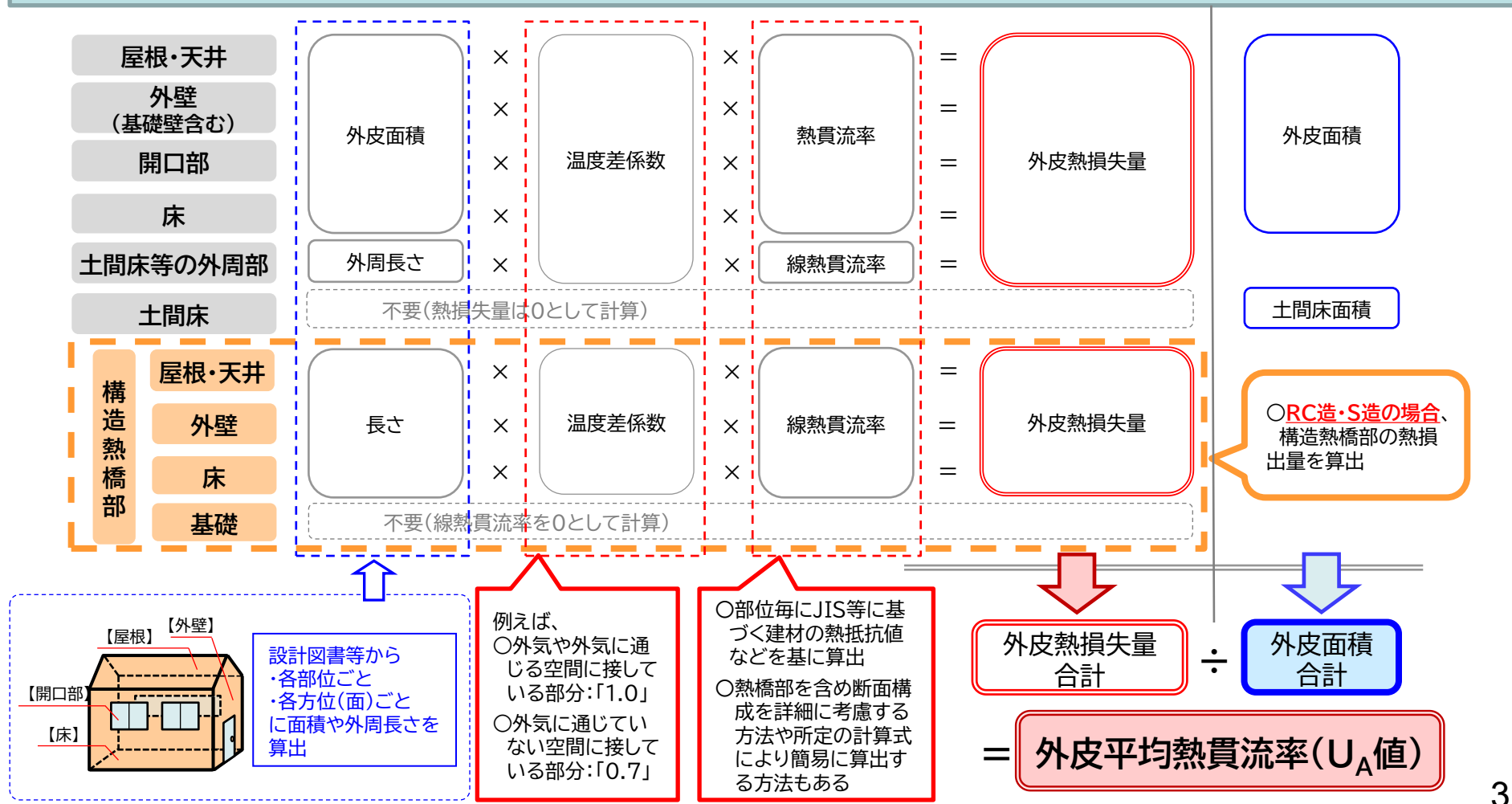
のいずれかで定めた性能値を計算に用いる。

新評価方法における外皮性能(外皮平均熱貫流率)の計算 国土交通省

(標準計算)

Point

- 外皮のうち、**屋根・天井、外壁、開口部、床等**の部位毎の**熱貫流率**等を**計算**し、住宅全体の外皮平均熱貫流率を算出します。また、**RC造・S造の場合、構造熱橋部の外皮熱損失量**を**算出**します。
- 外皮の計算は「計算シート」※を用いて行います。
※(一社)住宅性能・評価表示協会 住宅の外皮平均熱貫流率及び平均日射取得率計算書など



新評価方法における外皮性能(平均日射熱取得率)の計算(標準計算)

Point

➤ 外皮のうち、**屋根・天井、外壁、開口部等**の部位毎の**日射熱取得量を計算**し、住宅全体の平均日射熱取得率を冷房期・暖房期それぞれについて算出します。**(床・土間床は計算対象外です。)**また、**RC造・S造の場合、構造熱橋部の日射取得量を算出**します。

